

B-2. 餌はどうしたらいい？(命の尊重～生き物との出会いを通して～) みどり丘幼稚園(大阪府豊能郡)

戸外で伸び伸びと体を動かして活動できる園庭の他に、園の敷地に残る自然を生かした斜面の「ふくろうの森」や、「畑や飼育小屋」「ピオトープ」「裏山」など、様々な自然体験ができる環境をつくり、自然に親しみ自然の中で遊ぶことを大切に考えて実践を重ねている。そこでは、様々な生き物との出会いがあった。例えば、道で出会ったカメを園で飼育することになり、飼ってみるとカメが意外と速く移動し逃げてしまうことがわかり、そうしたカメのために運動場を作った子どもたちがいた。



このように、生き物を思いやり、「命の尊重」につながる心の育ちをした実践をまとめる。

	小鳥	イモリ	トンボ	
やる	<ul style="list-style-type: none"> 弱っているスズメが、園にくる。(保護者より) 巣から落下したツバメのヒナを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨時に、イモリが大発生し、たくさん見つける。 水槽に15匹集まる。 みんなで飼う。 	<ul style="list-style-type: none"> メダカの赤ちゃんがいる。 池(ピオトープ)の中のこの虫は何？ 羽化を10回見つける。 	<p>自然に興味をもち、繰り返ししかかわる。</p>
感じる (不思議・疑問)	<ul style="list-style-type: none"> 弱っているけど大丈夫かな。 スズメの飼いは、インコと同じなのかな。 目をつぶりそう、頑張り！ 大事に育てたけれど死んでしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> イモリにも手がある。 指が4本だ。 どうして体はヌルヌルするの？ 赤色の模様がある。 気持ち悪い。・面白い。 夜は寝るの？ 何を食べるの？餌はどうしたらいいの？ 	<ul style="list-style-type: none"> これは虫だ。 トンボの赤ちゃんのヤゴかな？草に登ってる、これもヤゴかな？ ヤゴから羽が出てきた。トンボになるの？ トンボの名前は何か？ 	<p>不思議さや疑問を感じ、楽しむ。</p> <p>興味や観察を継続する。</p>
考える	<ul style="list-style-type: none"> 餌をやりすぎたのかな。 水、飲めなかったのかな。 お墓を作ってあげよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 死んでつらい思いをしないように飼育方法をよく調べよう。(小鳥の経験から) 何でイモリには天気が分かるのか。頭で考えるのか。本当に当たるのか。 天気とイモリの様子を調べよう。 餌のミミズを見つめる。 ミミズにも命がある。 	<ul style="list-style-type: none"> トンボになるか見ていよう。 羽が乾いてトンボになった。 シオカラトンボだ。オスとメスは違うんだ。 飛んでいるトンボを見つけ「幼稚園で生まれたトンボが帰ってきたのか」と思う。 まだ茶色いのは赤ちゃんトンボだ。 	<p>生き物を思いやる。命の存在を考える。</p>



考察

小鳥との出会いで感じた「生き物の生と死」の体験は、幼児なりに飼うという責任を感じてイモリを飼育する姿に結びついた。トンボの羽化に出会えたことで、池の中の生き物への興味が増し熱心に観察するようになり、生まれているトンボの名前やオスメスの違い、ヤゴが羽化しトンボになって飛び立つまでの様子など、興味を追求することで主題に迫る様々な体験に結びついた。

ポイント

身近な自然の生き物や飼育物など、園では様々な生き物との出会いやかかわりが見られます。この事例では、小鳥の命・イモリの特徴や飼育方法・ミミズの命・トンボの誕生などの経験を重ねて命の大切さを実感し、思いやる心が育きました。「様子を見る」から「進んで飼育し観察する」に変容し、感じたり考えたりすることで、さらに自然のままの観察や羽化の感動、羽化したトンボと飛んできたトンボを思う経験につながり、環境を大切にすることも芽生えてくると思われます。子どもたち一人ひとりが「生き物とどのように出会い」「何を感じ」「どのような考えや思いをもってかかわったのか」を細やかに捉えることで、貴重な体験の積み重ねを援助することができます。